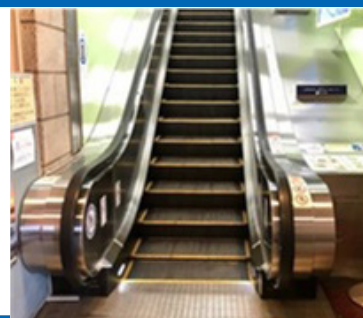


昇降機 Column ④

“有料エスカレーター”のこと

— 設計者が、新しい用途を拓く —

■コラムニスト、エスカレーター技術研究家 齋藤 忠一



■有料の〈江ノ島エスカー〉が誕生

今から20年も前になるのか…かなり年配の経営者2人に、担当組織の責任者として対応した記憶がある。用件は日本初の有料エスカレーター〈江ノ島エスカー〉の更新についてであった(江ノ島と江の島の使い分けについては省略する)。面談までの数日、社内報で予習した。

- 1) 1959年(昭34)、江ノ島の観光客を山頂の遊園地まで運ぶ、上りエスカレーター4台を設置した。
- 2) 古い橋が強度不足で干潮時、砂洲上を搬入した。
- 3) 完成すると、海水浴客が足裏を痛める事例が多発。急遽、踏板的な(さん)を丸める対策を施した。

こうした予習のお陰で「大型ヘリコプターでの搬入」や「踏段は、すでに丸み付き」をリコメンドできた。

その10年後、揚程10mのS600形2台、同13mのS1,000形2台(写真)が「1回360円」で稼働している。

筆者、かつて構想したテレビドラマの関係で、湘南エリア、とりわけ「古都鎌倉」好きで、住人でもある。

ただ、往時の幕府が海と山に囲まれた“要塞地”として選んだ位だから、崖崩れが悩みの種である…。

小欄の4回目は、“有料エスカレーター”を切り口にそれを生んだ“設計者の姿勢”について書こうと思う。

■“エレベーター”の場合は—

同じ昇降機仲間でも“エレベーター”の場合は、各種建築物の「展望台入場」込みの有料であって通常、特別な“エレベーター料金”の設定はない。

筆者が試乗した時は、69階に展望フロアがある〈横浜ランドマークタワー〉は大人1,000円、〈東京スカイツリー〉は展望セットで3,100円、還暦を過ぎた〈東京タワー〉の大展望台は大人900円、栃木県日光市の〈華厳の滝〉用は、数年前の話で大人往復550円であった。

西日本の、高さ108mの〈神戸ポートタワー〉は高校生以上700円、日本一のノッポビル、高さ300m〈あべのハルカス〉の展望台までは大人1,500円であった。

変わった所では、横浜にある高台マンション〈ブリリアンシティ横浜磯子〉は入口と出口に自動改札機が備え

られていて、交通系のICカードで計50円引き去る仕組みになっているとか。こうした“実質有料エレベーター”も、その都度技術革新されたのであろう—そうでなければ、話題になり、歴史に刻まれることはない。

■“設計者”が、記録品を生む

日本で有名な“有料エスカレーター”としては、徳島県の〈エスカヒル鳴門〉や〈札幌ドーム〉がある。

なかでも、“エスカヒル”は“鳴門大橋”の開通を見越した鳴門山(大毛山)からの“うず潮”眺望用で、それまでの電動リフトを、併設各2台のエスカレーターに変え、大人400円(2018年)で利用されている。その当時、2人並びのS1,000形だと大々的な開発が必要だった揚程40mクラスを避けて揚程34mと、約6mのS600形の「乗り継ぎ方式」を提案し、受注に至っている。

両方を設計したのが、“後輩”と言うよりは、難題に挑む“戦友”的存在のO君であった。エスカレーターでの思わぬ事故、故障、災害、保守点検を考慮する一方、あらゆる場面で目的地に向け、一つの動線を確保できる提案の賜物—後日、お客様が感心したと聞き及ぶ。

ところで、現役時代のO君はその“人柄”、“明晰な頭脳”、難題でも“逃げない性格”において“唯一無二”の人材であった—何より、O君に学んだのは顧客に対して「常にベストを考え提案する」姿勢である。

■今は、「製品改良」の時代

世の中のどんな製品にも、どんな記録品にも、あらゆる困難を克服して実現した事業者と設計者がいる。エレベーターもエスカレーターも先輩の領域だった「大発明の時代」は過ぎて「改良の時代」に移行中、と思う。

直近のテーマは、適正な利益を得る“コストダウン”と少子高齢化必須の“乗客保護と安全性”であろう。

最近しみじみ思う—「働き方改革」が叫ばれる昨今、強くて折れにくい“芯”とそれを包む優しい、良木の“軸”からなる“鉛筆”のようなO君の存在。その生き方を、どうにかして後輩につなげたい、と。